



マイク&カメラ 市民インタビュー室

「彦根を舞台にした美しいミュージカル」

「つばめ」彦根市公演実行委員会 副委員長 岡田 彰さん（平田町）

わらび座の「つばめ」は、宗安寺（本町二丁目）の本堂と庭を舞台にしたミュージカルです。

江戸時代の日本と朝鮮は対等な友好国として交わっており、朝鮮国王から將軍に対し友好の証として何度も遣わされたのが「朝鮮通信使」でした。通信使は選抜された優秀な官僚を中心とする4～500人の大使節団で、陸路大坂から江戸に向かう途上、正使など主だった人は必ず宗安寺に宿泊することになっていました。

「つばめ」は、通信使の一人が、死んだはずの妻に宗安寺で再会するところから始まります。その妻は、彦根藩士との間にすでに子を持つ身となっていました。物語は、二つの愛、二つの国の間で苦悩する姿を描きます。



岡田さん

脚本はジエームス三木さん。韓民族の伝統舞踊の振り付けを韓国の舞踏家が担当するなど、本格的なものです。私は昨春秋、たざわこ芸術村（秋田県）のわらび劇場で見ましたが、見たこともないような美しい舞台でした。雨の降る寒い日でしたが、客席は満員で、人気の高さがうかがえました。聞くところによると、2度、3度と足を運ぶ熱心なファンも多いそうです。2月からは全国各地で公演されるということで、彦根のまちや歴史の情報を広く紹介する絶好の機会ですね。

ミュージカル「つばめ」の一場面



3月4日(火)には、近畿のトップを切っぴこね市文化プラザで昼夜2回の公演が行われます（13ページ参照）。市民みんなの力で、ぜひとも成功させたいものです。